

# 治療計画書

療名

DLd

療法

1サイクル 4 週

(ID 0 ) ★7

疾患名 再発又は難治性の多発性骨髄腫(2サイクル目)

注射 内服 放射線	Rp	商品名	用量(/回)	投与ルート	投与時間																																
			用量(/日)	用法	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28					
放射線		照射部位	照射量																																		
注射	1	生理食塩液	250 ml	点滴	キープ																																
注射	2	生理食塩液	50 ml	点滴(側管)	キープ																																
注射	3	ダラザレックス 生理食塩液	16 mg/kg 500 ml	点滴(側管) 全量500mLに調製	フローシートに従う																																
注射	4	生理食塩液	50 ml	点滴(側管)	ルートフラッシュ																																
注射	5																																				
注射	6																																				
注射	7																																				
注射	8																																				
注射	9																																				
注射	10																																				
内服	1	レナデックス	20 mg	ダラザレックス投与1-3時間前																																	
内服	2	レナデックス	20 mg	1日1回朝食後																																	
内服	3	ネオマレルミンTR	6 mg	ダラザレックス投与1-3時間前																																	
内服	4	カロナル	1000 mg	ダラザレックス投与1-3時間前																																	
内服	5	レブラミド	25 mg	1日1回就寝前																																	
内服	6																																				
内服	7																																				
放射線			Gy																																		

特記事項

- ・インフュージョンリアクションGrade1~3の出現時はダラザレックスの投与を中断し、回復した場合には出現時の半分以下の速度で投与を再開できる。Grade 3のインフュージョンリアクションが3回出現した場合およびGrade 4のインフュージョンリアクションが出現した場合は、ダラザレックスの投与を中止する。
- ・レブラミドはクレアチニンクリアランス(CrCL) > 60mL/分を超える患者には25mgを、CrCLが30~60mL/分の患者には10mgを各サイクルのDay1からDay21まで経口投与する。毒性に応じて15mg、10mg、5mgに減量する。
- ・75歳を超える又は過小体重(BMI: 18.5kg/m2未満)の患者には、レナデックスを20mg/週で投与してもよい。

減量規定

薬品名	レブラミド			
標準投与量	25 mg			
1段階減量	15 mg			
2段階減量	10 mg			
3段階減量	5 mg			